

児童生徒氏名 (部 年)

担当者 ()

1 実態把握

--

2 指導目標

年間 目標	
前期	
後期	

3 項目の選定

※項目はキーワードのみ記載しています

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
①生活リズム・習慣形成	①情緒の安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢・動作の基本的技能	①コミュニケーション基礎的能力
②病気の状態の理解・管理	②状況理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚・認知の特性への対応	②補助手段の活用	②言語の受容と表出
③身体の状態の理解・養護	③困難を改善・克服する態度	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助・代行手段活用	③日常生活の基本動作	③言語の形成と活用
④健康状態の維持・改善		④集団への参加の基礎	④感覚を活用した状況把握	④身体の移動能力	④手段の選択と活用
			⑤概念の形成	⑤作業に必要な動作・遂行	⑤状況に応じたコミュニケーション

4 具体的な指導内容

前期

指導内容・場面・項目		
------------	--	--

後期

指導内容・場面・項目		
------------	--	--

5 次年度への引き継ぎ

--

実態把握表(記入例)

平成25年12月05日記入

肢体不自由部門	中学部	2年	氏名 東 支援	記入者 宍井 太郎
---------	-----	----	---------	-----------

	関連する主な項目		実 態
I 病理・健康管理	健康の保持 (1)(2) (3)(4)	障害の状況	脳性麻痺(痙直型とアテトーゼ型の混合タイプ), west 症候群, 水頭症(シャント手術)
		体格	身長: 126.5 cm 体重: 17.6 kg (栄養状態: -30.2)
		服薬	朝晩服用(エクセグラン, セルシン, イノチーム) 季節の変わり目にアレルギーの薬を服用する。
		体温・脈拍	平熱: 36.5°C 脈拍: 60 体温調節が難しく, 冬場は体温が低め(35°C台)なる。
		発作	30秒~2分位の発作(四肢・顔面の痙攣)
		医ケア	日常対応生徒(吸引)
		検査	年1回脳波検査(岡大: H25.3.22)
		その他	未熟児網膜症のため斜視が強い。メガネはあるが, 嫌がることが多いので使用していない。
II 身体	身体の動き (1)(2) (3)(4) (5)	姿勢反射	定頸(±) 座位(-) 四つ這い(-) 寝返り(-) 体を左右に傾けると, 頭が 垂直に戻ろうとする(姿勢立ち直り反応+)
		移動	車いすで全介助
		頭部	頭が左に傾きやすいが, 意識すれば自分で起こ すことができる。
		体幹	全身の緊張が強く, 右凸の側彎がある。左側の 肋骨が骨盤に入り込んでいる。
		上肢	右肘脱臼, 右腕内旋 筋緊張のコントロールが難しいが, 自分の意志 で腕や手を動かすことができる。
		下肢	両股関節脱臼, 尖足 緊張が強く, 骨盤の歪みから, 下肢の変形もある。
		手指操作	目的をもって手を動かすことは難しいが, スイ ッチ等を押そうとする意思はある。
		その他	立位姿勢の時のみ, 両足に装具を装用する。

手書きも可



III 身辺処理・生活習慣	健康の保持 (1) 人間関係の形成 (1)(2) (3)(4) 環境の把握 (4)(5) 身体の動き (1)(2) (3)(4) (5)	食事 水分補給	全介助。介助者が首の後ろに腕を回し, ヘッドコントロールしながらリズム良く食べることが できるように言葉かけなどをする。形態: ペースト2度がけ。 水分補給: とろみをつけスプーンで飲む(持参のコップに半分程)。午前1回, 午後1回。 上あご裏に汚れがたまりやすいので, たまっているようであれば歯磨き時に除去する。
排泄	全介助。紙おしめ使用。 便秘がちで, 2~3日おきに浣腸をしている。		
更衣	全介助。 左腕は曲がるが, 右腕に曲がりやすく注意が必要。		
清潔	バギーを前傾していると, よだれが出るが多いので, 胸当てにハンドタオルを置いて いる。		
その他	乾燥しやすい時期には, 唇が荒れるのでリップクリームを持参している。		

IV 社会性・コミュニケーション	心理的な安定 (1) (2) (3)	対人関係	初めての場所や人に慣れるまで時間がかかり、身体に緊張が入ることが多い。教師からの言葉かけを聞いて笑顔になったり、声を出して笑ったりする。
	人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	コミュニケーション	問い掛けに対して、YES の時には目を上に動かして答える。「ん〜」という声を出すこともある。 NO の時には、目を動かさない。
	環境の把握 (4)	その他	読み聞かせや音楽（童謡やお母さんといっしょの歌など）が好きで、集中して聞くことができる。
V 認知	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	感覚	光をとらえることができる。物の注視や追視は難しいが、見ようとする意思はある。回転した後、眼振が数秒ある。 音に対する反応は良い。
		概念形成	身近な人の声や好きな音楽が聞こえると、声や音のする方へ顔を向け、笑顔になる。
		その他	身体を動かす遊びを特に好む。
VI その他		家庭生活 その他	長期の休みには、生活介護事業所（いんべ通園センター）に行くこともある。 旭川児童院でPT 訓練を隔週で行っている。
諸検査		MEPA-Ⅱ (H24.3.10 実施) 姿勢：4~6ヶ月 移動：7~9ヶ月 操作：7~9ヶ月 コミュニケーション：10~12ヶ月	

【申し送り事項】

- ・入院 H24.5.16~22 岡大病院（肺炎のため）
- ・手術入院予定 H26.4.1~25 国立岡山病院（気管切開の手術のため）

実態把握表

平成 年 月 日記入

肢体不自由部門	部	年	氏名	記入者
---------	---	---	----	-----

	関連する主な項目		実 態
I 病理・健康管理	健康の保持 (1) (2) (3) (4)	障害の状況	
		体格	
		服薬	
		体温・脈拍	
		発作	
		医ケア	
		検査	
		その他	
II 身体	身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	姿勢反射	
		移動	
	健康の保持 (3) 環境の把握 (3) (4)	頭部	
		体幹	
		上肢	
		下肢	
		手指操作	
		その他	
		手書きも可	
III 身辺処理・生活習慣	健康の保持 (1)	食事 水分補給	
		人間関係の形成 (1) (2) (3) (4)	排泄
	環境の把握 (4) (5)	更衣	
		身体の動き (1) (2) (3) (4) (5)	清潔
	その他		

IV 社 会 性 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	心理的な安定 (1) (2) (3) 人間関係の形成	対人関係	
	(1) (2) (3) (4) 環境の把握 (4) コミュニケーション	コミュニケーション	
	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	その他	
V 認 知	環境の把握 (1) (2) (3) (4) (5)	感覚	
		概念形成	
		その他	
VI そ の 他		家庭生活 その他	
諸検査			

【申し送り事項】

1 実態把握

--

2 指導目標

年間 目標	
前期	
後期	

3 項目の選定

※項目はキーワードのみ記載しています

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
①生活リズム・習慣形成	①情緒の安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢・動作の基本的技能	①コミュニケーション基礎的能力
②病気の状態の理解・管理	②状況理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚・認知の特性への対応	②補助手段の活用	②言語の受容と表出
③身体の状態の理解・養護	③困難を改善・克服する態度	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助・代行手段活用	③日常生活の基本動作	③言語の形成と活用
④健康状態の維持・改善		④集団への参加の基礎	④感覚を活用した状況把握	④身体の移動能力	④手段の選択と活用
			⑤概念の形成	⑤作業に必要な動作・遂行	⑤状況に応じたコミュニケーション

4 具体的な指導内容

前期

指導 内容・ 場面・ 項目		
------------------------	--	--

後期

指導 内容・ 場面・ 項目		
------------------------	--	--

5 次年度への引き継ぎ

--

児童生徒氏名 (

実態把握チェック表のチェック項目◎に関連して起こる、障害による学習上
または生活上の困難や、改善していかないといけない実態について整理

1 実態把握

何かほしいものがあるときや、手伝ってほしいことがあるとき、そばにいる大人に「おねがい」と訴えることができる。しかし、何をどうしてほしいかが伝わらないため大人がとまどっているというらだってしまう。怒って噛んだり物を投げたりすることは減ってきたが、大声を出したり走って部屋を飛び出したりすることがある。

2 指導目標

年間
目標 何がほしいのか、何をしてほしいのかを伝えることができる。

前期 「〇〇 ください」とカードや言葉で伝

後期

いくつかの指導目標の中で優先する目標を決める。できるだけ肯定的な表現で書く。

3 項目の選定

*項目はキーワードのみ記載しています

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
①生活リズム・習慣形成 ②病気の状態の理解・管理 ③身体の状態の理解・養護 ④健康状態の維持・改善	①情緒の安定 ②状況理解と変化への対応 ③困難を改善・克服する態度	①他者とのかわりの基礎 ②他者の意図や感情の理解 ③自己の理解と行動の調整	①保有する感覚の活用 ②感覚・認知の特性への対応 ③感覚の補助・代行手段活用	①姿勢・動作の基本的技能 ②補助的手段の活用 ③日常生活の基本動作	①コミュニケーション基礎的能力 ②言語の受容と表出 ③事柄の形成と活用

- ・前期のみ書く。1つでも2つでもよい。それ以上書く場合は表を分割して書く。
- ・具体的な指導場面と指導内容を書く。
- ・それぞれの指導内容について、どの項目と関連しているかを最後に示す。

4 具体的な指導内容

前期

指導内容・場面・項目	係活動の場面で、活動に必要な物を「〇〇ください」と教師に伝えて、もらう経験を積む。すでにできている「くすりください」をセンテンスカードにして視覚的に示し、目的語の部分を変えて要求できるようにする。 2-①、3-①、4-⑤、6-②	ことば・かずの個別課題の場面で、PECS を用いてカードでほしい物を教師に伝える経験を積む。 3-①、4-⑤、6-①、6-②、6-③
------------	---	---

後期

指導内容・場面・項目	前期・後期の評価は「個別の指導計画」(通知表)の「支援と評価」に記入する。後期の指導終了後、長期目標についての成果と課題を簡単に記す。
------------	---

5 次年度への引き継ぎ

次年度への引き継ぎの記入欄

区分	項目	観点	チェック
健康の保持	① 生活リズム・習慣の形成	体温調節・睡眠と覚醒のリズム・食事・排泄・衣服や室温の調節・換気・清潔の保持はどうか？	
	② 病気の状態の理解・生活管理	病気の進行防止のための自己管理ができるか？	
	③ 身体各部の状態の理解・養護	養護すべき部位の保護ができるか？	
	④ 健康状態の維持・改善	運動不足や肥満ならぬよう健康管理はできるか？	
心理的な安定	① 情緒の安定	環境的な要因や、自分の気持ちや感情をコントロールできずに情緒が不安定になることはないか？	
	② 状況の理解と変化への対応	変化する状況に適切に対応できるか？	
	③ 困難を改善・克服する態度	自分に自信を持ち、得意なことを生かして、不得意なことにも積極的に立ち向かえるか？	
人間関係の形成	① 他者との関わりの基礎	人に対して基本的な信頼感があり、他者からの働きかけに応じられるか？	
	② 他者の意図や感情の理解	相手の心の状態を読み取り、それに応じて行動できるか？	
	③ 自己の理解と行動の調整	自分の得意不得意、自分の行動の特徴を知り、集団の中で状況に応じて行動できるか？	
	④ 集団への参加の基礎	集団の雰囲気に合わせて、手順や決まりを理解したりして遊びや集団活動に参加できるか？	
環境の把握	① 保有する感覚の活用	視覚・聴覚・触覚に問題はないか？	
	② 感覚・認知の特性への対応	感覚の過敏さや認知の偏りはないか？	
	③ 感覚の補助・代行手段の活用	視覚や聴覚に障害があり、代行手段や補助機器が必要か？	
	④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握	他の感覚や代行手段を使って行動できるか？	
	⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	ものの機能や属性、形、色、音、空間・時間の概念を自分の認知や行動のために使えるか？	
身体の動き	① 姿勢と運動・動作の基本的技能	姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作はどうか？	
	② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢保持や基本動作改善に補助用具が必要か？	
	③ 日常生活に必要な基本動作	食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴、書字、描画等のための動作ができるか？	
	④ 身体の移動能力	自力で目的地に移動できるか？	
	⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行	両手の協応、目と手の協応、正確さや速さ、持続性はどうか？	
コミュニケーション	① コミュニケーションの基礎的能力	表情や身振りなどなんらかの方法で相手に伝えようとするか？	
	② 言語の受容と表出	話し言葉や絵、記号、文字等を用いて相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりできるか？	
	③ 言語の形成と活用	相手からの信号を具体的な事象や現象と結びつけて理解し、体系的な言語を身に付けているか？	
	④ コミュニケーション手段の選択と活用	話し言葉、文字・記号、機器などを選んでコミュニケーションできるか？	
	⑤ 状況に応じたコミュニケーション	場や相手の状況に応じて主体的なコミュニケーションが展開できるか？	

区分	項目	観点	チェック
健康の保持	① 生活リズム・習慣の形成	体温調節・睡眠と覚醒のリズム・食事・排泄・衣服や室温の調節の保持はどうか？	
	② 病気の状態の理解・生活管理	病気の進行防止のための自己管理ができるか？	
	③ 身体各部の状態の理解・養護	養護すべき部位の保護が	
	④ 健康状態の維持・改善	運動不足や肥満になり	
心理的な安定	① 情緒の安定	環境的な要因や、自分	
	② 状況の理解と変化への対応	変化する状況に適切に	
	③ 困難を改善・克服する態度	自分に自信を持ち、得	
	④ 他者との関わりの基礎	人に対して基本的な信	
人間関係の形成	① 保有する感覚の活用	相手の心の状態を	
	② 感覚・認知の特性への対応	自分の得意不得意、自	
	③ 感覚の補助・代行手段の活用	集団への参加の基礎	
	④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握	視覚・聴覚・触覚に問題	
環境の把握	① 保有する感覚の活用	視覚・聴覚・触覚に問題	
	② 感覚・認知の特性への対応	感覚の過敏さや認知の偏	
	③ 感覚の補助・代行手段の活用	視覚や聴覚に障害があり、代行手段や補助機器が必要か？	
	④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握	他の感覚や代行手段を使って行動できるか？	
	⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	ものの機能や属性、形、色、音、空間・時間の概念を自分の認知や行動のために使えるか？	◎
身体の動き	① 姿勢と運動・動作の基本的技能	姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作はどうか？	
	② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢保持や基本動作改善に補助用具が必要か？	
	③ 日常生活に必要な基本動作	食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴、書字、描画等のための動作ができるか？	
	④ 身体の移動能力	自力で目的地に移動できるか？	
	⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行	両手の協応、目と手の協応、正確さや速さ、持続性はどうか？	
コミュニケーション	① コミュニケーションの基礎的能力	表情や身振りなどなんらかの方法で相手に伝えようとするか？	○
	② 言語の受容と表出	話し言葉や絵、記号、文字等を用いて相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりできるか？	◎
	③ 言語の形成と活用	相手からの信号を具体的な事象や現象と結びつけて理解し、体系的な言語を身に付けているか？	◎
	④ コミュニケーション手段の選択と活用	話し言葉、文字・記号、機器などを選んでコミュニケーションできるか？	
	⑤ 状況に応じたコミュニケーション	場や相手の状況に応じて主体的なコミュニケーションが展開できるか？	

日頃見ている実態の中につまずき、困っているところについて、チームで語りながらチェックしていく。まず、「課題がある」と思われる項目に○を付けていく。次に、その中でも今取り組むべき項目を◎にする。「取り組むべき項目」の指標としては、

- ・めづえがある
- ・取り組みやすい
- ・緊急性がある
- ・現在および将来のニーズが高い
- ・家庭と連携しやすい

などがある。

B 部門 自立活動の個別の指導計画 (A 様式)

() 部 () 年生 () 平成 年 月 日 記入者 ()

1 実 態 (学習上又は生活上の困難, 興味関心等)

	場面・観点・検査	実 態
行 動 観 察		
聞 き 取 り	担任の願い 保護者の願い	
検 査		

* 実態把握の観点 (例)

〈コミュニケーション〉
話し言葉の有無・伝達内容と手段・話題の共有・やりとりの成立

〈対人関係や社会性の発達〉
他者の受け入れ・集団の中での様子

〈心理的な安定の状態〉
情緒・感情のコントロール・注意集中

〈知的発達の状態〉
認知面・文字の理解・話し言葉の理解

(興味・関心)
好きなもの・趣味・余暇活動

(指導の手がかり)
得意なこと・本人が困っていること・周囲が困っていること・有効な働きかけ

2 目 標

長 期	・
短 期	・

3 選択された項目と具体的な指導内容

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

選択された
項目の関連

【 具体的な指導内容 】

--	--	--	--

4 題 材

--	--

5 実 践

6 成果と課題

実態把握表(A様式)

年 組 ()

年 月 日 記入

区分	項目	観点	学習上・生活上の困難、芽生えていること
健康の保持	① 生活リズム・習慣の形成	体温調節・睡眠と覚醒のリズム・食事・排泄・衣服や室温の調節・換気・清潔の保持はどうか？	
	② 病気の状態との理解・生活管理	病気の進行防止のための自己管理ができるか？	
	③ 身体各部の状態の理解・養護	養護すべき部位の保護ができるか？	
	④ 健康状態の維持・改善	運動不足や肥満にあらぬらぬら健康管理はできるか？	
心理的な安定	① 情緒の安定	環境的な要因や、自分の気持ちや感情をコントロールできずに情緒が不安定になることはないか？	
	② 状況の理解と変化への対応	変化する状況に適切に対応できるか？	
	③ 困難を改善・克服する態度	自分に自信を持ち、得意なことを生かして、不得意なことにも積極的に立ち向かえるか？	
人間関係の形成	① 他者との関わりの基礎	人に対して基本的な信頼感があり、他者からの働きかけに応じられるか？	
	② 他者の意図や感情の理解	相手の心の状態を読み取り、それに応じて行動できるか？	
	③ 自己の理解と行動の調整	自分の得意不得意、自分の行動の特徴を知り、集団の中で状況に応じて行動できるか？	
	④ 集団への参加の基礎	集団の雰囲気に合わせてたり、手順や決まりを理解したりして遊びや集団活動に参加できるか？	

区分	項目	観点	学習上・生活上の困難、芽生えていること
環境の把握	① 保有する感覚の活用	視覚・聴覚・触覚に問題はないか？	
	② 感覚・認知の特性への対応	感覚の過敏さや認知の偏りはないか？	
	③ 感覚の補助・代行手段の活用	視覚や聴覚に障害があり、代行手段や補助機器が必要か？	
	④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握	他の感覚や代行手段を使って行動できるか？	
	⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	ものの機能や属性、形、色、音、空間・時間の概念を自分の認知や行動のために使えるか？	
身体の動き	① 姿勢と運動・動作の基本的技能	姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作はどうか？	
	② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢保持や基本動作改善に補助用具が必要か？	
	③ 日常生活に必要な基本動作	食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴、書字、描画等のための動作ができるか？	
	④ 身体の移動能力	自力で目的地に移動できるか？	
	⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行	両手の協応、目と手の協応、正確さや速さ、持続性はどうか？	
コミュニケーション	① コミュニケーションの基礎的能力	表情や身振りなどなんらかの方法で相手に伝えようとするか？	
	② 言語の受容と表出	話し言葉や絵、記号、文字等を用いて相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりできるか？	
	③ 言語の形成と活用	コミュニケーションを通して事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成が図られているか？	
	④ コミュニケーション手段の選択と活用	話し言葉、文字・記号、機器などを選んでコミュニケーションできるか？	
	⑤ 状況に応じたコミュニケーション	場や相手の状況に応じて主体的なコミュニケーションが展開できるか？	